

# 佐賀県建築士会 女性部会（委員会）

## 会員数 73名 1993年設立

これが建築士

佐賀県建築士会女性部会

### WACコーナー

#### 続けること…発行から丸5年を迎えた、鳥栖支部会報紙

鳥栖支部 広報委員長 岡部 和子

年3回の発行、と聞けばたいしたことない会報紙では、と思われるかも知れませんが、最初の編集会議から発行まで実に2ヶ月もかかっていた、フリーエッセイ、事業報告、委員会紹介、おすすめスポットや業務の紹介等、A3サイズながらも中味の濃い会報紙です。平成17年7月に第1号が完成し、この3月には第15号を発行しましたが、インターネットの発達した何事もペーパーレスでという時代に、何かホッとできて存在感のある小さな「紙の媒体」です。建築士会の活動に参加している自分たちで作る会報紙ですから、内容も執筆者の意外な業態を垣間見ることができたり、興味あるものが多く、第2号～第12号まで続いた「リレー」会員紹介では全員に顔写真付きで登場してもらいました。紙面刷新した第13号からは鳥栖土木事務所建築課のご協力を得て、情報コーナーを設け好評です。女性、青年委員会の8名の委員が意見を出し合い、作業を分担して「建築」という会員の共通のテーマの内容を築らましながら、和気藹々としていきます。現在は会員も増えていますが、広く一般の方を対象としての会報紙ができれば、とも話しています。



#### 定例会を開催いたしました

小城支部：田中 久久支部：副島 康津支部：坂本

平成21年度 第三回定例会を小城 久久 康津の担当で開催いたしました。

今回は改築になったばかりの小城市立牛津中学校（普通教室棟）校舎見学です。福岡校長先生自ら建物内部を案内していただき、設計上あるいは施工上色々、工夫されていたことなどを説明していただきました。参加者は17名でした。

次回は、平成22年度第1回定例会となり担当幹事は、神地、鳥栖支部さんです。皆様、参加よろしくお願ひいたします。



#### ECOかど作り講座

鳥籠住くらぶ

平成22年2月23日火曜日13時30分より伊万里市図書館にて地域貢献活動事業の一環で、「ECOかど作り講座」を開催しました。

男性1名、女性16名それぞれ鳥籠住くらぶ5名とたくさんの方に参加していただき大盛況でした。

2時間の予定でしたが、3時間ほどかかりました。皆さん集中してお話もせず、黙々と作業をされました。最後の仕上げが残っていましたが、みなさん喜んで帰って帰られました。「楽しかった」「また、こんな企画があったら連絡下さい」との嬉しい言葉もいただきました。講座を通じて作ったものへの愛着が湧いて、ものを大切に作る心が、エコに繋がって行き、素材を利用したもののづくりが広がって行く事に期待します。



## 人と人の絆



#### 「子どものための生活空間」づくりに参加しませんか

佐賀県建築士会女性委員会

始まりは、佐賀県建築士会青年部の小学校の夏休み課外授業での折り紙活動による地域実践活動をおして佐賀県学童保育支援センターの県内4つの支援センターのひとつ佐賀支援センターの支援員の先生方（全員女性スタッフ）と、日頃通達建築士の地域に根ざした社会貢献活動の事について地元の活動事例などを話す機会があった。そこで、女性建築士として「子どものための生活空間」について何か出来ることはないだろうかという投げかけをみたところ数日後、放課後児童クラブ（学童保育）の環境整備の相談をしたいという協力の要請があった。今回のプロジェクトは私達は勿論、佐賀支援センターの支援員の先生方も初めての取り組みとなる企画であり全くの手探りでスタートとなった。テーマは「子どもたちの豊かな心を育む生活空間の改善」。モデルとして選ばれたのが多良東部小学校の空き教室を利用して放課後保育をされている「多良東部小なか小クラブ教室」で、まずはクラブの児童、指導員（1クラス3名）の先生方（全員女性）とのコミュニケーション、予算が全く無いので教室に在る物を使っての環境整備の為、机、イス、本棚などなど備品の寸法取りから始めた。行政の方もいったい何をやるのかとまった疑問解決の中、平面図をコピーして欲しいと申し出てもらい出してもらえ、平面図の調査測量、図面の確認から全くの手づくりのスタートだった。レイアウトも子供達と一緒に考える為、机、タタミ、本棚などなど実際に在る物のプロット複製を作り平面図の上で動かしながらワイワイガヤガヤ、女の子と男の子達の色々な本音の意見が出たり、子ども達同士が話し合っていたレイアウトの難題を聞き出すとクラス1の乱暴者は意外、思いやりのある、周りのことを良く考えていた子供達も毎日死んでいることではまる指導員の先生方には再発見であったり、教室にもっとタタミスペースを取って机を減らして遊べる環境を多く作りたいという佐賀支援センターの支援員の先生からの指示と、現場の指導員の先生からみた必要性との折り合いは、減らさない理由が机の側に子どもたちの私物が入っているからだったと言う事も、ランドセル棚の上部の空きスペースにコンパネで棚を作り其処に一人ひとりにひとつづつトレイを用意した事によって、机の側に私物を置かなくなって増えるも少なくなったと言った結果が環境整備をした後から解ってきた現在進行形で現場の先生方の気持ちも高まってレイアウトをいろいろ試してみたりしながら机を減らす方向で進んでいる。また、子ども達と一緒に考えた模様替えだったせいもあって、放課後「たのび」で帰ってくる子ども達からは「今日は何かワッたらんやーん」と言われるとの報告があった。放課後児童クラブに通う子ども達にとってクラブは「家庭に代わる毎日の生活の場」だそうです。今回のプロジェクトをおして、現場の指導員の先生方が働きやすい空間へつないでいくことで余計なストレスを無くし、子ども達の健全な育成を図るためにも「子どものための生活空間」作りはとても大切な事だと実感しました。今後の動きとして、佐賀県学童保育支援センターの県内4つの支援センター

- 佐賀支援センター（佐賀市、小城町、多良東部、江北町、大町町、白石町）
- みやま支援センター（鳥栖市、神埼市、基山町、みやま町、上神町、吉野ヶ里町）
- 伊万里支援センター（唐津市、伊万里市、玄海町、有田町）
- 唐島支援センター（唐島市、延野町、武雄市、大町町、太良町）

へ今回のモデルとなったクラブが報告された行か少しづつ環境整備が各地域で広がる予定だそうです。佐賀県女性委員会の地域実践活動のひとつとして「子どものための生活空間」づくりを軸に「住育」や児童公園、街路、と言った子ども達にとって身近な空間環境を考えていく事が出来ればと思っています。まずは、佐賀県学童保育支援センターさんへの専門家としての協力をし、していくことから始めていけたらと思っていますのでお近くの地域のクラブになるかまだ解りませんが決まればお声掛けをさせていただきますのでその時はご協力よろしくお願ひ致します。



参加者/佐賀：山口美由紀、岩永久美子、多良：副島律子、志野寿子